

る部分をまとめたものである<sup>21</sup>。

同5ヵ年計画案によれば、「環境」は、各セクターに横断的に係わる事項として位置付けられている。即ち、環境を直接的に支える森林の管理開発を担当する森林局ばかりでなく灌漑、水資源、農業、畜産、水産および水産に関連する各部局は、環境担当局として位置付けられる。

これらの各セクターの環境に関連する部局の全ての活動事項は、セクター毎の担当業務枠を越えるものであり、流域をユニットとして相互に総合的に分析、計画し、総合流域管理計画としてまとめられる。森林の管理・開発に関する骨子は次の3点に集約される。

- ・ 健全な森林の保全と荒廃林の復旧
- ・ 卓抜に変わる持続的且つ生産性の高い造林の推進
- ・ 社会林業の拡大

### 3. 環境保全の制度と実施体制

#### 3-1 森林自然環境保全に関する組織の概要

州森林局が、面積2,325.26km<sup>2</sup>、州の約6%に当たる野生動物保護区、自然公園と約110万haの法定林地の管理・開発に当たっている。州森林局は、州を次の5つに区分に分けて森林の管理、開発に当たっている。森林局の職員数は第一主任森林保全官（Principal Chief Forest Conservator of Forests）を筆頭に総数でおよそ5,600名、職種数が88である<sup>22</sup>。

同森林局は、州内を大きく5つのサークルに分けて森林の管理開発に当たっている。また、5つのサークル以外に3つの特別サークルがある。それらサークルは次の通りである。

- ・ 南部サークル（Southern Circle, Kollam）
- ・ 高地サークル（High Range Circle, Kottayam）
- ・ 中央サークル（Central Circle, Thrissur）
- ・ オラバコードサークル（Olavakkode Circle, Parakkad）
- ・ 北部サークル（Northern Circle, Kozhikod）

そのほか、次の3つの特別サークルが作られている。

- ・ アガティヤバンナム生物公園、トリバンドゥラム（Agasthyavanam Biological Park, Thiruvananthaduram）
- ・ フィールドダイレクター、タイガープロジェクト、コッタヤム（Field Director, Project Tiger, Kottayam）
- ・ 野生生物サークル、パララッカ（Wildlife Circle, Palakka）

---

<sup>21</sup> KFRI 資料より作成。

<sup>22</sup> ケララ森林統計 1999

### 3-2 ドナー、NGO の活動状況

#### ケララ植林事業 (Kerala Forestry Project : KFP)

同事業の実施計画 (Implementation Plan, 1998) によれば、KFP は世銀融資によって 1999 年に開始されたケララ森林局を実施機関とする、事業期間 4 年、州内の 40 箇所 54,600ha を事業の対象地とする案件である。事業目的は、ケララ州における生物多様性保全の促進、森林荒廃の抑制、環境および社会的見地からの持続的な森林生産力の向上と、森林の周辺や内部に居住する部族も含めた地域住民の生活環境向上である。事業コンポーネントは、i) 森林セクター、ii) 森林管理、iii) 生物多様性保全であり全体的には調査計画、実施・管理、研究・調査 (生物多様性に係る) の流れとなっている。それぞれのコンポーネントの内容は、次の通りである。

i) 森林セクター：森林政策フレームワーク、機関、人資源の向上・強化等に係るプログラム

ii) 森林管理：劣化森林林の更新、自然林及び産業造林管理、森林荒廃地への PFM の導入、優良苗木導入に係る研究、農家植林への支援等に係るプログラム

iii) 生物多様性保全：州内 40 地域での開発計画、保全戦略策定、保護地域 (Protected Area) 管理、調査研究である。

写真 III-8 は、同事業によってチャラクディ川流域に建設された小堰 (Gully Plugging) である (堰堤高 120cm、幅 3 m)。



写真 III-8 世銀事業による小堰

#### アタパディ総合環境保全計画

アタパディ地方はケララ州中西部の丘陵地帯に位置し、レイン シャドウ (Rain Shadow) と呼ばれ雨量が少ないケララ州の中では特異な地域である (最も雨量の低い地域の年間雨量は約 800mm)。事業対象地域は、約 82,600 ha である。在来の部族は、自給自足の生活をおくっていたが、近年、入植者の増加等により土地利用形態変化及び粗放な土地利用によって、自然環境が甚大な影響を受け、荒廃地面積が拡大してきている。このような背景下、住民参加による植林、水資源開発の事業を通じ、荒廃地の復旧・保全を図ると共に、山間地住民の生活向上を目的とした荒廃地開発事業が 1999 年より JIBIC 融資のもと、着手された。

本事業はケララ州地方開発局を実施機関とし傘下のでアタパディ丘陵地域開発公団 (Attappady Hill Area Development Society: AHADS) が実施担当している。事業内容は、i) 水及び土壌保全、ii) 森林管理、iii) 水資源開発、iv) 農業開発、v) 産業開発：手工芸品、畜産、魚の養殖、果物生産等、vi) 社会基盤整備となっており、地域住民の新しい生活基盤となる社会

経済活動として、水や森林等の自然資源を活用し、農業、畜産、森林生産等の分野における開発が計画されている。同事業は計画・準備期間を経て、2001年度より本格的な施工が開始されている。



写真 111-9 アタパディ総合環境保全計画